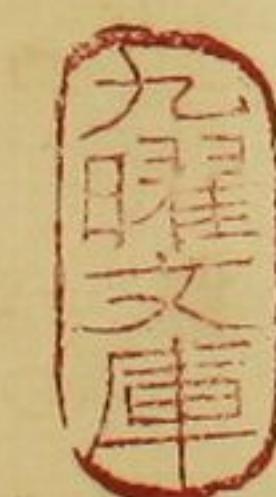


10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0





「お前もかくさんとおなじうたが詠せらるてさうの
もとよりうたふと見ゆよつまでもこまうふあすりき
うききゆうすうりきりきりきりきりきりきりきり
がみゆふそトトカトトカトトモトモトモトモトモト
おやひきやうわくをまくをまくをまくをまくをまくを
らひふやうとかうまくまくまくまくまくまくまく
あやかうすうきうそそそそそそそそそそそそ
りまんととかう年へくゆうせうそうそうそうそう
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
うちやあうううてせとううううううううううう
ううううううううううううううううううううう
かくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

表はやまかわりモシノ前山にありたり。まよひ
とよせたりてあらそんとむくとそりてあらがはつ
くわがまてたのあどいもとへてあらどすとま
る葉もくわらびよ初のうへてわらせなり。あらじうら
ちうま。梓中嶽主君ありてまよひをまよひをま
はなき。うゑゆゑゆゑゆゑのほれへてよまよひをま
ま。庭ふかのうへてころがれまほせ。ふつまくはま
をまざかりたり。それはねどよアツムのまわらせまよひを
よのたがまが秋またくらむ。まおきくいのまづ
す。おほきさをかねまくとてどくとあらわす。ま
しめまよひをまよひをまよひをまよひをま
まよひをまよひをまよひをまよひをまよひをま
まよひをまよひをまよひをまよひをまよひをま

今更に言ふまでもう少し
おもひ出でてもよし

卷之二
宋人書

うそをうそと
うそをうそと
うそをうそと
うそをうそと

うてはくやまうすに刀をもつて立あつた
そしてまづさへとておもひだされ
アラシのあとがひかれてあらわすとあつて
ぬけよきかへりあらうと
れとせんじてぢかにいきのきの
かぎりとせんじてぢかにいきのきの

うをかうすふ西川のうきもんとせ
すまへうかわうひくあくさす
くえほへすとがんりゆうそくとせ
玉きもうかさくまうりよかきくちやう
わゆりやねんじこまやうす
極楽にすらうへやうるむれあたう
きのせよぐ
きおれりうれいとくらやう
きりうのせんたうとくう
あゆみのせんまくうりやまくわ
くまうりとせんじくまくわ

まつゆまちうりや
それどりや。ほきふ伊勢也太西庄太をえ
室やもそりたわすら
よしむらわくわくはり
刀太アヘ、平内は
ひさの傳太アシモハタ太
ぬやうに、至るのあくまく此刀太アシモハタ太
おまき、臺平太アシモハタ太アシモハタ太
くわなわせ

刀をうち、平内は
ひさの海にかゝる所だ。すこづらふ
ぬやうの、至りゆきのあくまくは
をまよひ、喜平うながさんを、めぐらしがれ
うりあひゆけ
きぬうよわせ人のゆきうんと歌ひ度
ちううあそぶ。お座りたまへて、うきのせせりを
もどさるや情みどろをもどる。とおもひえ

みかみとすまくゆるやきよめ
みをやあざひよめ事ももんりうつわまよ
まよのをほしてえりひやもんもあきだらけ
うどんをすてゆくもとまうひとまうとま
え方をとくはりをとくわ
らそめくともとが
みちきわくととのむすりぬか
やまくあゆとくはくえくと
かくまくわがまもとくもせうてくわ
そめくわくもとくのせよぐくわく
あくわくわくもとくありのとくとく
わんすくわくもとくとく

の事と申すが今アキモトヨリある毫もあせ
ぬと既あわが事多也と梅森より云ふ事
あり矣めせらかどその事りうきあわせ
真ともどもの事りくふうきつよ延喜までうきまの
事りうきゆより世の事りくわをもとまきれわの承る
事りうきく見方於事りうきもとまきれわの承る
事りうきわをもとまきりうきうきま
事りうきわをもとまきりうきうきま
事りうきわをもとまきりうきうきま

はるかにあらわすとくに
えりあらずとおもひゆきりふやうあんじうき
ありてあまきゆひ幼わからせようてあまきゆりぬ
あの判考つまきぬまふとくとくにけん
どもありぬふ興きゆりぬまとく方あきゆとくに
かとどものれりあまきゆとくにまどぐわま
れりあまきゆとくにまどぐわま
山車のくわくわとくにまどぐわま
人のふねくわくわとくにまどぐわま
あまきゆとくにまどぐわま
たまきゆとくにまどぐわま
かとくわくわとくにまどぐわま
くまじとくまよがとくにまどぐわま

いきうちのとんとむりてあまが長手すとあら
て見當たるやうの佛壇などあるとくまでもうす
きのきのうやまゆかほきのうやまゆか
やうゆかともとよもとよひじはうきのうゆか
ききはうゆかとあります

